

續姿三四郎

『續姿三四郎』（ぞくすがたさんしろう）は、1945 年（昭和 20 年）5 月 3 日の公開日本映画である。東宝製作、映画配給社（紅系）配給。監督は黒澤明。モノクロ、スタンダード、82 分。

黒澤のデビュー作『姿三四郎』の続篇であり、兄の復讐のため戦いを挑む檜垣兄弟と姿三四郎の死闘を描いた作品である。前作の大ヒットを受けて製作した娯楽作だったが、黒澤は「あまり上出来の映画にならなかった[1]」と述懐している。

あらすじ

前作「姿三四郎」の明治 15 年から 5 年後の明治 20 年。旅から帰ってきた三四郎はアメリカ人の船乗りに暴行を受けていた左文字大三郎を助けます。そのことからアメリカ人拳闘家と試合をしないかと声をかけられますが、三四郎は見世物に出ることは禁止されていると断ります。代わりに出場した中年の柔道家はボロボロになるまで負けてしまい、三四郎は複雑な想いを抱きます。前作で三四郎に敗れた檜垣源之助の弟の鉄心と源三郎が上京し、兄の仇をとろうと立ち合いを申し込みますが矢野正五郎に断られます。戦いたくても決まりがあって実現できない三四郎は、わざと破門されようと道場でお酒を飲むという奇行に。しかしそれに気がつかないふりをしてさりげなく柔道の極意について諭す矢野正五郎には心を打たれます。そんな中、三四郎を表に出したい檜垣源之助の弟の鉄心と源三郎は、関係のない修道館の門弟を襲撃するなどエスカレート。ついに破門される覚悟で三四郎は道場を出て鉄心との戦いに挑んでいくのです…。

スタッフ

監督：黒澤明、製作：伊藤基彦、脚本：黒澤明、原作：富田常雄、柔道指導：佐藤金之助、高村徳一

唐手指導：小西康祐拳闘指導：堀口恒男、撮影：伊藤武夫、美術：久保一雄

録音：亀山正二

照明：石井長四郎

音楽：鈴木静一

助監督：宇佐美仁

編集：矢口良江

製作主任：青木武弘

現像：東宝現像所

キャスト

矢野正五郎：大河内傳次郎

姿三四郎：藤田進

檜垣源之助・鉄心：月形龍之介（大映）

檜垣源三郎：河野秋武

小夜：轟夕起子

戸田雄次郎：清川荘司

壇義麿：森雅之

津崎公平：宮口精二

左文字大三郎：石田鈇

関根嘉兵衛：光一

さいづち和尚：高堂国典

布引好造：菅井一郎

アメリカ人水兵：オスマン・ユセフ（ノンクレジット）